



あけましておめでとうございます。昨年は新しい生活様式の中でも子どもたちの元気な姿と日々の成長に勇気づけられました。今年も同様の生活様式が続きますが、元気に過ごして行ける様お手伝いさせて頂きたいと思ひます。今年もよろしくお祈ひします。看護師 今道 茜

12月感染症情報

・新型コロナウイルス 乳児3名 職員3名
近隣地域ではインフルエンザも流行してきています。予防接種が可能な方は積極的な接種をお勧めします。

しもやけのケア

寒くても子どもたちは元気いっぱいに遊んでいますが、指や耳がしもやけになりやすい時期です。かゆがっていたら注意して見ていきましょう。

しもやけ(凍瘡)：寒さのせいで血液の循環が悪くなる事が原因。

起きやすい時期：学童・女性

起きやすい場所：手足の指、耳、鼻、ほっぺた

症状：かゆみ、痛み、しびれ感、温まるとかゆみが強くなる。

様子：紫色にうっ血して、腫れる

悪化すると水ぶくれになり破れて潰瘍(ただれ)になることも。

予防：防寒具(手袋、耳当てなど)をして保温する

濡れた手袋、靴下は早めにかえる

使い捨てカイロで温める

きつい靴や靴下はさける

治療：家でできること・・・血行をよくするために温めたり、マッサージする事が有効

病院に行った方がいいとき・・・水ぶくれがある、かゆみが強いなど症状がひどいときは受診を
飲み薬や塗り薬をもらいましょう。



冬のやけどに注意！！

電気ケトルやポットはボタンがあったり、蒸気が出たり、音が鳴ったりするため、子どもの興味をひくことがあります。安全に配慮した電化製品を選んだり、子どもの手が届かないところに置くなど生活環境を見直しましょう。

電気カーペットや使い捨てカイロは、長時間皮膚が同じ場所に触れて低温やけどをすることがあるので、使い方に気を付けましょう。



やけどをしてしまったら・・・

①患部をしっかり冷やしましょう

患部に触らないように、流水や氷などで、直接または服の上から冷やします。広範囲の場合、水で濡らしたシーツなどで覆います。

最低20分間以上、痛みがなくなるのを目途に冷やしましょう。広範囲の場合、低体温になることがあるので冷やしすぎないように気を付けます。市販されている冷えるシートは熱傷には使用できません。

②やけどの状態をみて、対応を判断する

乳児の場合、身体の表面積の10%以上のやけどは危険なので、すぐに救急車を呼びましょう。

やけどの範囲が狭くても以下の場合は冷やしながら医療機関を受診しましょう。

・顔や頭、指の関節のやけど⇒ひきつれやケロイド、動きの制限などの後遺症の原因となります。

・水ぶくれができたり、皮膚がジクジクしている⇒感染症の原因となります。

